

神奈川県の学童保育

南関東ブロック学習会を開催

～ いまの子育て政策における学童保育の制度について学ぶ ～

去る9月16日（月）に平塚市勤労会館大会議室において、東京都、三多摩、千葉県、静岡県の連絡協議会との共催で南関東ブロック学習会を開催しました。保護者、指導員等関係者のほかに行政担当者、議員の参加もあり、1都5県より114名の参加がありました。

講師として、新坂葵氏（厚生労働省 子ども家庭局子育て支援課 健全育成推進室 健全育成係長）と植木信一氏（新潟県立大学 人間生活学部 教授）を招き、「いまの子育て政策における学童保育の制度について学ぶ～厚生労働省 放課後児童対策に関する専門委員会の議論を中心に～」の講義を受けました。

まず、新坂氏から子ども・子育て支援新制度も含め、学童保育の制度について伺いました。学童保育の位置づけ、運営指針、総合的な放課後児童対策（新・放課後子ども総合プラン）、そして令和元年度予算など最新情報を含め多岐にわたる内容でした。

続いて植木先生からは、「専門委員会の中とりまとめ」、「スウェーデンにおける学童保育指導員の養成について」を主な内容として、詳しくお話をいただきました。植木先生は、ご自身の学童保育指導員の経験から、実践に基づくひきつけられる講義でしたが、特に放課後児童クラブにおける「子どもの生きる力の育成」については、子どもが獲得すべき自主性、社会性、創造性を、放課後を通じて養うことの重要性について語られ、たいへん心に残りました。また、スウェーデンにおける学童保育の指導員養成や学童保育教育学等について紹介があり、今後の日本における学童保育について考えることができました。

植木先生は最後に、子どもの最善の利益と非認知能力（数値では測れない能力…自主性、社会性及び創造性）の2つの視点をもつことが、学童保育の中でも今後の方向性として大切だとまとめられました。

短い時間でしたが質疑応答があり、8人から質問が出ました。質問の中で、予算について言及がありましたが、新坂氏より「各自治体で予算の確保に苦勞しているとは聞くが、現場にお金が行くようお願いをしている。処遇改善についても自治体を使いやすいような形にしていくことを目指している。予算が減額にならないように引き続き取り組んでいる。予算についてはしっかりと各自治体で使ってほしいとお願いしている」との回答がありました。

また学校や放課後等デイサービスとの連携に悩む参加者からの質問や、量の拡充質の向上についての懸念も出され、地域で抱える課題が出される場面もありました。

今後も、情勢を学ぶ学習会を続けることが必要であり、今回のように保護者、指導員と共に行政担当者や議員にも呼びかけ、共に学ぶ機会を作っていきたいと考えています。



2019年度拡大運営委員会

9月16日、午前中の学習会に引き続き平塚市勤労会館にて、拡大運営委員会が9地域24人の参加で開催されました。

①午前中の講義を受けて、②基準の参酌化について、③連絡協議会・父母会の役割について、④運営負担の課題、⑤その他、以上の項目を中心に、各地域から状況報告をしていただき交流をしました。

①については、新総合プランなどわかりやすかった。現在はないキャリアアップの申請も考えた。（相模原）。議員や担当課の参加有り（平塚・大和）。

②については、「今のところ変更するつもりはない」との市長答弁はあったものの今後も注視していく必要がある（横浜）。議員懇談の議題に盛り込んだ（横須賀）。「参酌化の予定はない」と議会答弁（平塚）。陳情書が採択され国に意見書を出すことになった（三浦）。等の報告がありました。

④の課題では、公設化（一括法人委託化）にともない保護者の運営負担は軽くなったものの、保育の質の低下が心配（南足柄）。運営負担が大きく法人化の流れになっている（平塚・綾瀬）。運営負担が大きく会計で苦勞しているところが多い。株式会社の影もあり、NPO法人への希望者も多くなっている（横須賀）。保育料が保育所同様8段階の応能負担に変更予定（逗子）。等の報告を受け、③の連協や父母会の存在意義と役割について、運営支援も含め活発な意見交流がなされました。全国には、法人化されていても父母会のある所は沢山ある。子どもを真中に保護者と指導員で作る学童保育の良さを再認識し、それを伝えることを通して連協や父母会の活性化に繋げていくことを確認し合いました。

最後に会の持ち方について、メンバーがいつも同じ、議題を整理して進行してほしい等の貴重なご意見をいただきましたので次回への課題とさせていただきます。

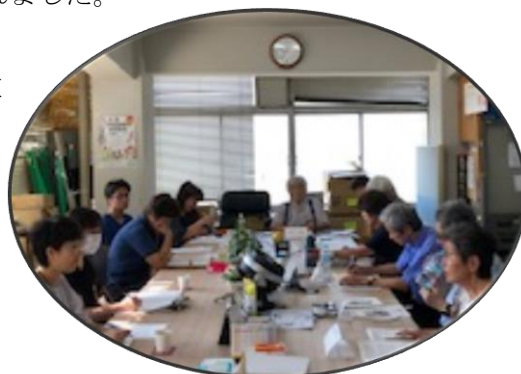
神奈川県次世代育成課と懇談をしました

10月1日（火）に、県連協事務所において、神奈川県で学童保育（放課後児童健全育成事業）を所管する「福祉子どもみらい局 子どもみらい部次世代育成課」のグループリーダーと副主任幹の2名にお越しいただき、各地域の連絡協議会から14人が参加し1時間半にわたり懇談が行われました。

相模原や平塚から、処遇改善事業費が指導員の処遇の改善につながっていない状況などが出されました。9月16日に行われた学習会で厚労省から受けた説明でも、「処遇改善事業費補助等の積極的な活用を」との話がありましたが、県からも同様の説明を市町村担当者会議で伝えている旨話がありました。

また横浜からは、キャリアアップ処遇改善事業費をもらっているが、児童数の減少で支援の単位が減り、指導員の給料を保持するために各クラブが持ち出しをしている実態が出されました。

県次世代育成課からは、県の資質向上研修の受講率の向上について強い関心があることが示され、また「国として職員の配置等が参酌化されたが、市町村が条例改正をしなければ守ることができるので、各自治体の状況を把握しながら進めていきたい」「質の向上のために、今後も資質向上研修等を進めていく」など、県の姿勢を伺うことの出来る機会となりました。



私のおすすめ『日本の学童ほいく』

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りでご紹介いただいています。



8月は逗子市の小関さんからのおすすめです。

運営委員会でお伝えした内容とは異なりますが、改めて2019年8月号の出会い集い父母会『『できること』を見いだすことで』を読み、働くために学童保育を利用しているのに、なぜ父母会（保護者会）という負担を担わなければならないかという声に対し、「それでも、何らかの団体に所属する以上は義務と責任は不可欠であり（中略）できることを見いだして参加することで「プレイレス」なギフト（お金では買えない貴重なもの）を受け取ることができる」と言われています。振り返れば私自身も保護者会の役員を経験し、大切な仲間や視点などといった貴重なギフトを受け取っているなと思いました。

また、9月の大和市の大矢さんからのおすすめは…。

2019年9月号講座「子どもがいきいき過ごせる場をつくる」を指導員同士で読んで「うんうん、わかるね」という話がいっぱいありました。学校で子どもたちの疲弊している様子が書かれていますが、自学童でも帰ってきてまず指導員に悪態をつくところから始まる子どもがいます。この講座を読み、学校で頑張らなくてはいけない状況なのだと思います。子どもの状況を念頭に置き、子どもの言葉の裏の気持ちを感じて子どもに接していきたいです。

とのこと。「子どもたちは、いろいろなことをランドセルに詰め込んで学童に帰ってくる」と教わってきましたが、ますます窮屈な学校生活。ランドセルは重くなる一方ですね。

指導員の皆さんも、保護者の皆さんも、この講座を読み合い、もう一度子どもの生活など話し合ってみませんか？ 大矢さん、ありがとうございました。

2019年9月号～10月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2019年9月号> 特集「子どもの気持ちに気づくって？」

- ★こどものひろば 横浜市鶴見たけのこ学童クラブ 彩ちゃん（2年）
- 横須賀市学童保育所まぼりっ子クラブ あかりちゃん（2年）

<2019年10月号> 特集「学童保育の施設と環境を考える」

- ★子どものひろば 茅ヶ崎市室田児童おおぞらクラブ ひなたちゃん（2年）
- 川崎市花の台学童ホール 拳叶くん（6年）

- ☆出会い集い父母会「つながりを礎に、支え合える保護者会を」
- 横浜市はすのみ学童クラブ保護者 内海華子さん

- ◆たのしいな 「みっこ」 横浜市わんぱくクラブ

「第43回神奈川県学童保育研究集会」のお知らせ

今年も「神奈川県学童保育研究集会(通称「かな研」)」の開催に向け、実行委員会が立ち上がりました。各地域の実行委員の皆さんと共に、保護者と指導員が共に学びあう研究集会の準備を進めています。

以下の要領で開催しますので、今から予定に入れておいてくださいね。

日程：2020年2月24日(月・祝) 10時00分～16時00分(受付開始9時30分)

会場：横浜市開港記念会館(全体会・分科会)・神奈川県庁新庁舎(分科会)

参加費：2,000円(資料代込み)

記念講演講師：星山麻木先生(明星大学教育学部教授、NHKすくすく子育て監修・出演他)

活動報告(8月～9月の主な活動報告)

8月18日(日) 全国普及拡大会議
 9月7日～8日 9月全国運営委員会
 9月16日(月) 南関東ブロック学習会 (AM)
 9月16日(月) 拡大運営委員会 (PM)

他 第1木曜日 定例運営委員会を開催
 それに付随し、役員会、事務局会議を実施
 また、県内の市町村を訪問し、状況や課題などお話を
 お聴きしてきました。

♪ 地域連協だより ♪

横須賀市連協だより

横須賀市学童保育連絡協議会は、1986年に立ち上がり今年で34年を迎えます。

学童クラブは、現在、市内46小学校区に72カ所に設置されていますが、連協に加盟しているのはそのうちの29クラブです。市連協の長年の活動の柱に、「学童保育の立ち上げ支援」があり、未設置学区を減らすために、地域で学童保育を必要とする声があれば、学童保育の開設までを支援する活動に力を入れてきました。横須賀市内で、クラブを立ち上げる時に連絡協議会から何らかの支援を受けたクラブは、半数を超えます。

現在、連協には、保護者会運営の他、社会福祉法人、NPO法人、一般社団法人、個人運営のクラブなど、多様な運営クラブが加盟しています。近年は、特に児童の増加により、学童クラブの分割が進んだり、個人が立ち上げるクラブも増えました。そして残念ですが、保護者会の機能があるクラブは、34施設程度にとどまっています。そんな状況の中、保護者会運営の大変さから、保護者会のないクラブを希望して移籍する家庭も少なくない現状で、連絡協議会でも問題となっています。

7月に、恒例の拡大運営委員会を開催し、各クラブの保護者会長や会計担当も集まり、クラブの課題を話し合いましたが、保護者会運営の負担感を軽減するために情報交換したり、各クラブの工夫を聞いたりして、課題解決への糸口を模索する時間を持つことができました。ゆるやかにつながる組織ですが、「あってよかった連絡協議会」という存在になれるよう、今後も活動に工夫をしていきたいと思えます。

来月11月24日には、第22回学童保育まつりを開催します。現在、市連協と指導員会で協力して企画準備をしています。市内のクラブ保護者や子どもたち、指導員たちの楽しい交流の場にもなっていますので、ぜひ皆様もお時間がありましたらお立ちよりください。 (文責 永松)

次号の「地域連協だより」は平塚市連協に担当していただく予定です。

お楽しみに！



神奈川県学童保育連絡協議会HP
 (<http://kanaken.onushi.com/>)



<これからの主な予定>

- 10月19日(土)～20日(日) 第54回全国学童保育研究集会 in 京都 (パルスプラザ他)
- 11月●日(土) 神奈川県の学童保育を支える議員連盟との懇談会 (横浜市)
- 1月19日(日) 「日本の学童ほいく」普及推進会議・新春会長会 (横浜市社会教育センター)
- 2月24日(月・祝) 第43回神奈川県学童保育研究集会 (横浜市開港記念会館他)

*その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会は運営委員会の前の週の木曜日に実施しています。